

デッ プーさんのなんか  
適当な話

リュドミラ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

デッドプールさんの話を適当に思いついたら書いていく作品です。

第1話

# 目次

1



## 第1話

アメリカ スラム街

『おい！そこのお前！そう、今、画面の前にいるそこのお前だよ、俺ちゃんがここで戦つて理由だろ？それはな、依頼なんだ、そう、あ、静かにしろよ、そこにいるんだ。銃は弾薬が尽きてるしよ、刀はさつき折られたばかりだ、話が長い？わかったよ、俺ちゃんの戦い見てろよ？』

【我々を呼んだか？】

《いや、違うだろう、ほら、よく見ろ、そこでコーラ飲んでるやつだ、私はコーラよりドクペ派だ。》

『だからお前ら黙つてろつて！その何十年も洗つてない靴とヤつたらそうなりそうなの男に気づかれるだろ！』

「おい、そこでこそそそしてるやつ、気づいてるぞ、出てこい。」

『やべえ！バレた！ワープだワープ！』

『あ、電池少ししか残ってねえや、まあいいか。』

ピッ

「あ？どこ消えやがった、さっきまでそこに……」

『いたはず、だろ、残念、お前の頭の上にワープした、これがビギナーズラックか、え？お前ビギナーじゃないだろ？だってこれ1話だし。』

「な、なに言ってるやが……」

それ以降男が喋ることはなかった、首の骨を折られたからだ

『よし、これで10000ドルGETだ、こいつ、なかなか強くてな、戦闘のセンスはともかく、力だけならハルク並だった。』

【さて帰るか。】

《最近出来た店に旨いチミチャンガがあるんだ、そこによってからにしよう。》

『ふむ、一話目からチミチャンガとか、まるでデッドプールの二次創作作品だな、これそうだけど。』

【誰が書いてるんだ？】

《それだけは企業秘密らしい》

『まあ、作者のことは置いておけ、どうでもいい事だからな。そんなことより、さつさとチミチャンガ食べに行こうぜ。』

『俺ちゃん、さっきの戦いで胃袋なくなつたせいで、さっき食べたタコスが無駄になつた。』

【そうだな、腹減つたし】

《物理的に減つてるな、じゃあ行くか》

ある意味有名人なので、一瞬やばいやつがいると思つて振り向くが、デッドプールだと分かるると全ての人が「いつもの事だな」

と、スルーしていく

『おいまで、上の文か気に入らん。ある意味つてなんだ、まるで俺ちゃんが変人みたいじゃないか!』

《赤いパンツかぶってるけどな》

『バカヤロウ、これはスーツだ。俺ちゃんがそんな変態なわけないだろう!』

【面白いジョークだ。そんなことより飯だ、腹減つたぞ。】



『分かったよ、じゃあ行くか、次回予告したらさっさと行こうぜ。』

### 次回予告

『この時点で考えてないけどドンパチやると思うぜ。それかスパイデイをいじる。』